

## DataCloset- のセットアップ手順

本手順書は、以下のステップより構成されます。

- Step 1. DataCloset- のシステムをインストールする。
- Step 2. Pervasive2000iのODBC接続環境を設定する。
- Step 3. DDFを作成する。
- Step 4. データ辞書を取り込む

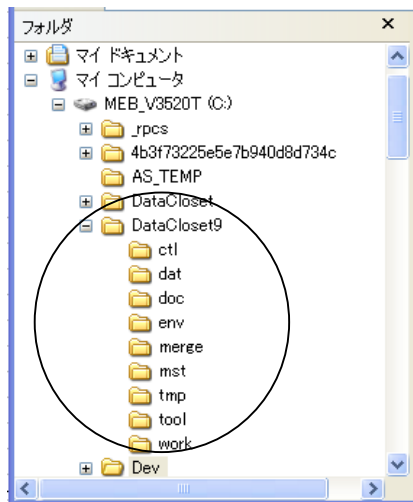
Option 1. システム設定のカスタマイズ

\* サンプルシステムを実行する場合は、Step. 3, 4 は不要です。

本手順書では、Pervasive2000iを対象に、テーブル情報の作成までの手順を説明します。  
テーブル情報の編集、データ辞書の作成、パターンの作成、等の操作方法に関しては、  
¥DataCloset¥Docフォルダ内の、  
設定マニュアル （ユーザ情報、DB情報、テーブル情報、データ辞書の定義方法）  
操作マニュアル （パターンの作成及び実行方法）  
を参照してください。

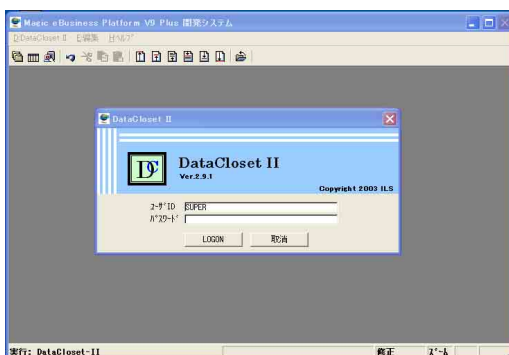
**Step 1.**

1. Cドライブ直下に、DC2v9.LZHを展開する。



\* 上記と異なるフォルダにインストールする場合は、「Option 1.システム設定のカスタマイズ」に従って設定を変更してください。また、この場合、用意されているサンプルマクロが使用できなくなりますので、ご注意ください。

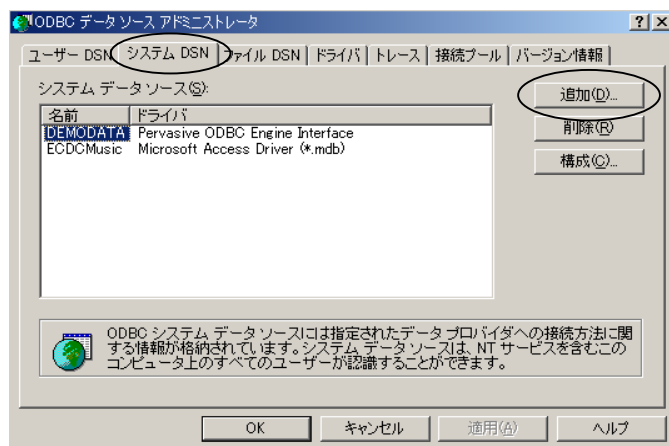
2. %DataCloset9%\toolフォルダの以下の2ファイルを、dbMAGIC の作業フォルダ  
(例: "C:\Program Files\Magic\DeveloperPlus")にコピーする。  
GUDF.DLL  
GUDF.MUD
3. INIファイルに、%DataCloset9%\env\dc.ini を指定してdbMAGICを起動する。  
(例:)  
C:\Program Files\Magic\DeveloperPlus\MGgenw.exe @c:%DataCloset9%\env\dc.ini /term=999
4. システムにログオンし、メニューが表示されることを確認してください。  
USER ID= 'SUPER'  
PASSWORD= なし



5. メニューが表示されたら、<Exit>を押して、システムを終了します。

**Step 2.**

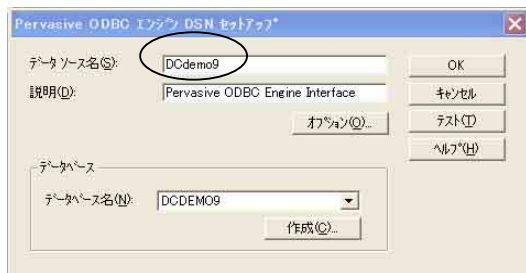
1. <コントロールパネル>-<管理ツール>-<データソース(ODBC)>で、「ODBCデータソースアドミニストレータ」を起動。
2. <システムDSN>を選択し、「追加」オプションを実行。



3. 「Pervasive ODBC Engine Interface」を選択。



## 4. データソース名、データベースを指定。



1) データソース名を入力して、作成ボタンを押す。

2) データベース名を入力して、辞書のロケーションを指定する。

3) 追加ボタンを押して、必要なフォルダを追加する。



#### データソース名

任意の名前を指定します。(サンプルの場合は、'DCdemo9')

#### データベース名

任意の名前を指定します。通常は、データソース名と同じ名前を指定します。

#### 辞書のロケーション

Step 3 で作成するDDFの保存場所を指定します。

実際にデータベースのあるローカルマシン上の任意のフォルダを指定してください。(サンプルの場合は、'C:\DataCloset9\dat'に保存されています。)

#### データファイルのロケーション

実際にデータベースの存在する場所を指定します。

複数のフォルダに存在する場合は、追加ボタンを使って、全てのフォルダを指定してください。

(サンプルの場合は、'C:\DataCloset9\dat'だけでOKです。)

**注意:** DataClosetをPervasive2000iで使用する場合、'%DataCloset9\Dat'フォルダをデータファイルのロケーションに登録する必要があります。これは、抽出の際に使用するファイルが上記フォルダに保存されるからです。

#### <データベースのフォルダが変更された場合>

<システムDSN>の画面より、該当のデータソースを選択し、<構成>ボタンを押します。

<システムDSN設定>画面より、<作成>ボタンを押して、新しいデータベースを登録します。

新しく作成されたデータベース名を<システムDSN設定>画面の<データベース名>に指定すれば、同じデータソース名で、新しく作成したデータベースをアクセスすることができます。

### Step 3.

このステップでは、DDFを作成します。DDFとはODBC経由でデータベースに接続するときに必要な情報が格納されているファイルです。

#### <前準備>

DDFを作成する前準備として、テーブルリポジトリの項目名を見直す必要があります。  
Pervasive.SQLではファイル名、列名(項目名)の制限があり、これに違反するとSQL  
の実行結果は保証されません。

(制限)

全角文字、半角英数字、及びアンダースコア('\_')で構成される20桁以内の文字列

対象のファイルのファイル名、項目名を見直し、必要であれば、項目名を変更してください。

例: 分類(1) -> 分類1、分類\_1 など

1. dbMAGIC の作業フォルダ(例: "C:\Program Files\Magic\DeveloperPlus")内の  
以下のファイルを削除する。

FIELD.DDF  
FIELDEXT.DDF  
FILE.DDF  
INDEX.DDF

2. 対象となるシステムを開発版で起動します。

3. テーブルリポジトリを開き、対象のファイルにカーソルを移動します。

4. <O:オプション>-<D:DDF作成> (もしくはCtrl-D) を実行します。

\*処理終了のメッセージ等は表示されません。最初の処理実行後に、1.で削除した  
ファイルが新しく作成されていることを確認してください。

2ファイル目以降の定義情報は同じDDFに追加書きで登録されます。

5. 4.の処理を該当する全てのファイルに対して実行します。

6. DataClosetを開発版で起動し、テーブルリポジトリを開きます。

7. テーブル番号の1、2のファイル(PV結果100、PV結果50)に対して、上記4.の要領で  
DDFを作成します。

8. dbMAGICの作業フォルダに作成されたDDFファイルをODBCの辞書のロケーション  
に指定したフォルダにコピーする。(Step 2.-4- を参照)

## Step 4.

このステップでは、テーブルリポジトリの内容をDataClosetのテーブル情報に取り込みます。処理は以下の2ステップになります。

テーブルリポジトリの内容をテキストファイルに仕様書出力する。  
で仕様書出力されたファイルを指定して、テーブル情報を読み込む。

1. 対象となるシステムを開発版で起動します。
2. <設定>-<動作環境>より、「外部参照タブ」を選択する。
3. ドキュメントテンプレートファイルに、以下のファイル名を指定する。

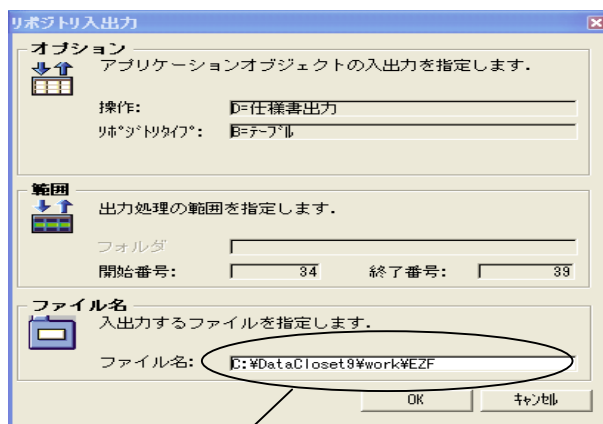
¥DataCloset9¥Env¥doc\_dc.jpñ



4. <設定>-<プリンタ>より、先頭のプリンタの行数を'999'に変更する。



5. リポジトリ入出力を実行する。



\*取り込みの時のフォルダの初期値はDB詳細に指定された作業フォルダです。従って、このフォルダに出力しておくと、取り込みが楽になります。

7. DataClosetを起動し、DB登録権限のあるUSER IDでログインします。  
(インストール時は以下のユーザでログインします。)  
USER ID= 'SUPER'  
PASSWORD= なし
8. システム設定画面から、DBのプロパティを表示します。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "DB登録". It has two tabs: "基本情報" (Basic Information) and "WEBオプション" (Web Options). The "基本情報" tab is active. Inside, there are several input fields: "ID" with the value "PV", "名称" (Name) with "営業支援 DWH", and "DBMS" with a dropdown menu showing "2: PERVASIVE". Below these is a section for "接続情報" (Connection Information) containing "ANK名" (ANK Name) with "PCdemo9", and empty fields for "ユーザ名" (Username), "パスワード" (Password), and "接続文字列" (Connection String). At the bottom, there is a "作業フォルダ" (Working Folder) field with the path "C:\DataCloset9\work\" and a "参照" (Reference) button. At the very bottom of the dialog are "OK" and "取消" (Cancel) buttons.

ID: DBを識別するための任意の2桁の文字列を指定します。

DB: Pervasiveを選択します。

接続情報: ANK名の欄に、データソース名を指定します。(Step 2.-4- を参照)

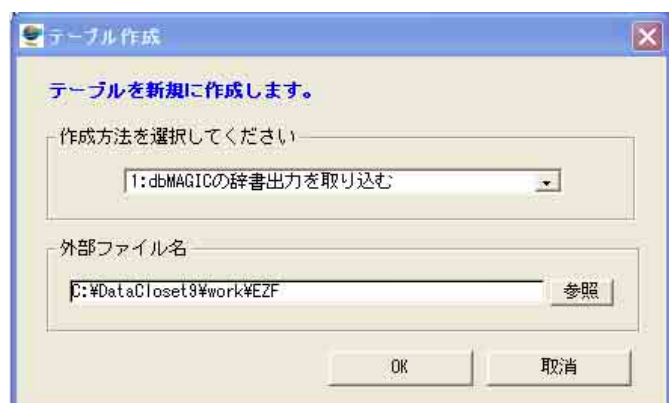
作業フォルダ: 作業用のフォルダを指定します。(Step. 4-5を参照)

\*作業用フォルダの最後は、¥で終わるように指定してください。

WEB結果オプション: WEB実行の場合に必要なになります。

\* OKボタンを押して画面を閉じます。

9. システム設定画面でテーブル情報を選択し、<追加(F4)>を実行します。



10. 作成方法に「1:dbMAGICの辞書出力を取り込む」を指定し、外部ファイル名に 5. で作成した辞書出力ファイルを指定して、OKを押します。



11. 一覧から登録したいテーブルを選択し、必要に応じて、分類、名称を変更後に、OKボタンを押します。



## Option 1.

DataClosetを標準フォルダ以外の場所にインストールする場合の設定方法を説明します。

DataClosetを標準フォルダ以外の場所にインストールする場合は、以下の設定の変更が必要になります。

INIファイルのホームフォルダの変更

ショートカットのリンク先の変更

サンプルデータのDB詳細の作業用フォルダ(サンプルデータを実行する場合にのみ必要)

サンプルデータの出力先、後処理の変更(サンプルデータを実行する場合にのみ必要)

\*以下の例では、DataClosetをDドライブの¥APPフォルダの直下に展開した場合を想定して説明します。

¥DataCloset¥Envフォルダ内のDC.INI を変更します。

(DC.INI)

/[MAGIC\_LOGICAL\_NAMES]DC = 'c:¥DataCloset'

該当のフォルダに変更

例: 'd:¥App¥DataCloset'

¥DataCloset¥Toolフォルダ内の、DataClosetショートカットのリンク先を変更します。

(ショートカットのリンク先)

c:¥V8GEN¥MGGENW.EXE @c:¥DataCloset¥Env¥DC.INI

該当のフォルダに変更

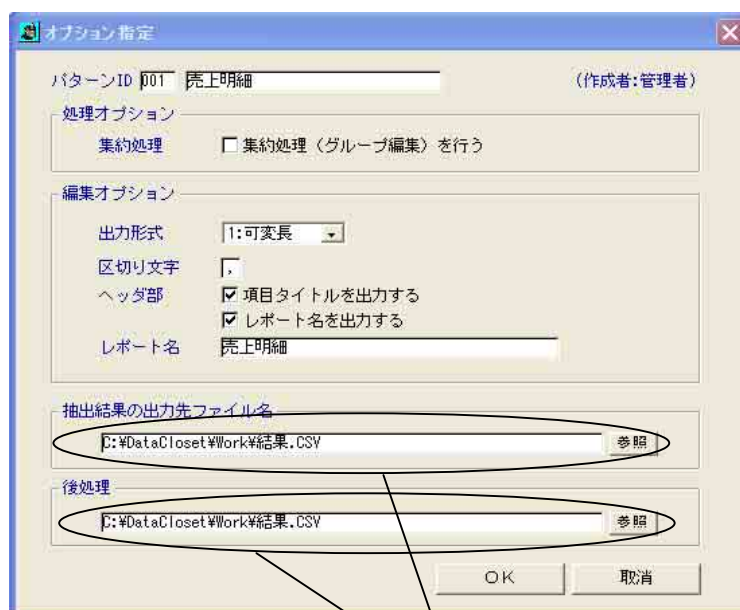
例: @d:¥App¥DataCloset¥Env¥DC.INI

サンプルデータのDB詳細の作業フォルダを変更します。

該当のフォルダに変更

例: d:\¥App¥DataCloset¥work¥

システムを起動し、サンプルで登録されているパターンを呼び出します。



作成した¥DataCloset¥workフォルダに変更  
例: d:\¥App¥DataCloset¥Work¥結果.csv